

生物化学実験 IV C-3,4 染色と染料 よりよいレポート作成のために

注意：

- この手引きは、よりよいレポートを作成するための手引きです。
- レポートは、期限内提出が厳守です。もしこの手引きの内容が書けなくても、自分で書ける内容で期限内に提出する事を優先してください。

手引きの概要：下記の項目を持つレポートを作成してください。

1. 目的
2. イントロダクション
3. 実験
4. 結果
5. 考察
6. 引用文献
7. 設問

次ページに、記載内容の例を示します。

1. 目的：本実験は、xxxxxxx xxxxxxxx することを目的とする。

(記載内容：この実験の目的を1文程度で簡潔に記載する)

2. イントロダクション：メチルオレンジとは、xxxxxxx xxxxxxxxxx

(記載内容：この実験の目的物であるメチルオレンジがどんなモノであるか、本などで調べて記載する。引用した参考書などは、6. の参考文献に記載する。)

本実験では、上記目的のため、このメチルオレンジを合成し、xxxxxx を観察する。

3. 実験の部：(記載内容：実験で行なった作業を、そのまま過去形の文章で記述する)

4. 結果：メチルオレンジ (OO g；通常は量を記入するが、今回は計量なしのため記入しない) を合成した。合成したメチルオレンジを使用し、pH 呈色実験を行なったところ、OO では OO 色、xx では xx 色、△△では△△色・・・となった。

また、還元実験では、塩化スズを加えることにより、メチルオレンジの塩酸溶液が、xxxxxx から oooooo となった。

(記載内容：写真を載せた場合も、改めて文章で説明を載せる。)

5. 考察：

pH 呈色実験では、pH の違う緩衝液によって、メチルオレンジの色が xxxxxxxxxx となった、これは、メチルオレンジが、xxxxxxxxxxx であるからと考えられる。

(記載内容：結果で記載した内容について考察をして、考えたことを記載する。)

また、還元実験では、xxxxxxxxxxx。(記載内容：還元実験についても同様に記載する。)

実験中、xxxxxx を加えたあとに pH を調べたところ xx 性になっていなかったことから、xxxxxx を追加して加えたところ、xx 性となった。これは、その前の作業での xxxxxxxx が多かった(不足しいた)ことから、xxxxxx が十分にされなかったためと考えられる。

(記載内容：実験テキスト通りにいかに、試薬などを追加した場合などは、その作業についても考察を加える。)

6. 参考文献：

① 染料のすべて (本の題名)、xxxxxxx 著 (著者名)、xxxxxxx 出版(出版社名)

② xxxxxxx

③ xxxxxxx

(記載内容：引用した本などがあれば、題名、著者名、出版社名などを記載する。引用した本が無ければ、この項目はいらぬ)

7. 設問：(記載内容：設問と回答を記載する。)